

法科大学院 来年4月開校へ向け全力

人間性豊かな法曹を育成 学長 出牛正芳



専修大学では、04年(平16)4月に法科大学院を開校すべく設置準備を進めてまいりましたが、このたび文部科学省から設置認可について意見の伝達があり、遺憾ながら再補正の必要が生じました。専修大学法科大学院の開校を期待されている皆様には、大変ご心配をおかけしました。

現在、本学に対してなされた指摘事項について早急に対応を講じて12月10日に再補正申請を行いました。

指摘事項は、民事訴訟法の分野に専任教員が配置されていないとのことでありましたが、再補正を行うことにより、本学の構想する「少人数教育によって人間性豊かな法曹を育成する」という目的は、十分に達成されるものと考えております。今後、文部科学省の審査を経て04年1月末の設置認可を受けるべく、4月1日の開校を目指して鋭意準備を進めておりますので、ご理解ご支援のほどお願いいたします。

法科大学院の設置は、本学のモットーである「社会知性の開発」を具現化する一つであり、また本学創立の原点に立ち戻って考えるならば、「社会生活上の医師」ともいべき法曹を育成することは本学の責務であると考えております。

このような観点から、新入学生術奨励奨学生(合格者20%に対し学費全額補助)および経済支援奨学生などを充実させ、有為な人材を育成することができるよう、情熱をもって法曹教育に取り組む所存でおります。本学法科大学院での法曹教育にご期待いただきたいと思います。



▲完成真近神田8号館(法科大学院棟)

筆記試験について

①小論文試験について

与えられた文から、何が問題かを把握し、それらがどのように関係し合っているのかを分析した上、自らの考えを論理的かつ平易に表現できる力、すなわち、読解力、分析力、表現力について評価します。なお、法律の解釈や判例等の知識を問うものではありません。

②法律科目試験について

既修者枠に出願する場合は、必修科目として民法が課せられます。この民法からは合計2問出願されます。他の選択科目(憲法・刑法・商法)については、大きく1問ずつ出題されます。各科目とも法学既修者として必要となる基礎的な知識を問う内容の筆記試験となります。選択科目間で事前に調整し

て、その難易度を平準化するように心がけます。総じて、現行の司法試験第2次試験論文式試験レベルの水準を求めるものではありません。

【選考方法】

出願書類による書類選考と適性試験の成績、本法科大学院が行う筆記試験(未修者:小論文、既修者:法律科目)により第1次選抜を行い、合格者を発表します。その合格者を対象に第2次選抜として面接試験を行い、第1次、第2次選抜として面接試験を行い、第1次、第2次の結果を総合的に判断して最終的な合格者を決定します。

【募集人員・募集区分】

法学未修者18名程度、法学既修者42名程度

【入試要項】

募集要項配布 =04年2月1日(日)から

出願期間 =04年2月1日(日)~2月12日(木)締切日消印有効

筆記試験 =04年2月21日(土)神田キャンパス

第1次合格発表=04年2月26日(木)

面接試験 =04年2月29日(日)神田キャンパス

第2次(最終)合格発表=04年3月5日(金)

◎入学検定料 35,000円

【学費】

入学金20万円(初年度のみ)、授業料95万円、施設費26万円、他7,000円(以上、予定)

【奨学金】

①新入生学術奨励奨学生(入学者選抜における成績優秀者に給付)=学費相当額を2年間支給(合格者の2割程度を予定)

②特別学術奨励奨学生(本学出身で、入学者選抜における成績が①に準ずる者に給付)=授業料の半額相当を2年間支給(若干名)

●お問い合わせ先=法科大学院設置事務室 03(3265)6891

/ホームページアドレス <http://www.acc.senshu-u.ac.jp>

【ニュース専修12月号1面】

卒業生3人が合格 2003年度「司法試験」

今年度「司法試験」で本学から卒業生3人が合格した。合格者は1170人(受験者4万5372人)、合格率は2.58%。90年に2.38%を記録して以後、最も「狭き門」となった。本学の合格者は平成7年経営卒業生、平成8年法学部卒業生、平成11年法学部卒業生であった。

国家試験合格者合同祝賀会



▲国家試験合格者合同祝賀会の様子

03年度の司法試験、公認会計士第2次試験、国家公務員採用I種試験合格者(合計16人)を祝う合同祝賀会が、12月1日、神田キャンパスで開催された。出牛正芳学長・理事長をはじめ、関係者約70人が合格者の努力を称え、祝福した。

【ニュース専修12月号1面】

キャンパス探訪〈14〉アートの旅

『イスタンブールの夕暮』(左) 『歷程A』(右)



黒海とエーゲ海を結ぶボスポラス海峡。その西側のイスタンブール(コンスタンチノーブル)は、オスマン・トルコと西欧の攻防の地、双方の宗教、文化の交差点でもある。西欧から地理的に遠い方は極東、近い所は近東。西欧思想による勝手な呼称ともいえる。

生田キャンパス7号館の1Fロビーの2点『イスタンブールの夕暮』『歷程A』は、アジアの原風景を思わせる。近景・遠景の差異はあるが、朱色をモチーフとした、安穩さに溢れる。たゆたう幻想…。

画家は立軌会同人で、多摩美大監事などを歴任の松葉良。2作とも91年に寄贈された。ちなみに『歷程A』で連想するのは、17世紀のバニヤン作の英小説『天路歷程』で、試練を経て神の都に着く寓意の旅物語である。

【ニュース専修12月号1面】